

「令和元年度 乳児保育研修会」報告書

【期 日】令和元年9月4日（水）

【会 場】メートプラザ佐賀

【主 催】佐賀県保育会

【参加者数】135名

【内 容】

研修1 10:05～10:30 講師 指山 健次郎（佐賀県保育会 会長）

研修2 10:30～12:00 講師 北野 久美 氏（全国保育士会 副会長）

研修3 13:00～16:00 講師 遠藤 利彦 氏（東京大学大学院教育学研究科 教授）



研修1「基調報告」講師：指山健次郎（佐賀県保育会 会長）

8月28日の大雨で災害に遭われた方、心よりお見舞い申し上げます。
佐賀県保育会として何が出来るかを考えていきたい。



◆保育を取り巻く現状◆

- ① 施設数や待機児童について…施設数・定員及び利用児童数は増加しているが、待機児童は解消されておらず、1・2歳児を中心に多い状態である。
 - ② 保育士不足…年々求人数は増加、特に12月は多く昨年3.64に。
 - ③ 保育士などキャリアアップ研修…質の向上のために行われている。
 - ④ 幼児教育・保育の無償化…国の資料での説明。市町によって少しずつ違いがある。
- ※乳児保育研修受講の先生方へ…乳児保育は、人との関わりの入り口、いろいろな事に氣を使われていると思いますが、頑張ってください。

研修2「寄り添い、見守る乳児の世界」講師：北野久美 氏（全国保育士会 副会長）

セーフティネットでありライフラインとなるのは…私たちの現場。

子どもの命を守り、学ぶ意欲を育てる…保育の実現を目指していく。

トリプル改定の『しん』⇒新・親・真・奥

「子どもの育ちを支える場」のガイドラインがリニューアル。保育所の位置づけは大切。

器が大きくなったのに定員に満たしていない園が多くなった…保育士不足。

「子どもの育ちについて」学びなおす良い機会に。

「子どもの育ちを支える保育」を実践し、さらに保護者支援や地域関係機関との連携、小学校との継続等、実践してきたが今後さらに保育所は対人援助者としての役割も大きくなっている。

①現代の乳児保育について

受容的・応答的に行われる保育、少人数で落ち着いた環境、乳児の3つの柱。

自分でしようとする気持ちを尊重した保育が重要である。

②乳幼児期の育ちと遊びの展開

乳児の発達や0歳児の育ちをしっかりとさえる。

原始反射は、72種類あり成長発達の見極めをしていく。それらを言語に置き換えて説明や理屈が言える必要がある。そういった力をつける事が求められている。

専門性とは、常に学び続け質の向上に努めることである。

③環境の重要性

環境との相互作用で育つ。望ましい環境は『うちの園児にあったもの』が良い。静かな事も大事である。

④乳児への関わりと保護者支援

1・2歳児の38.1%が園で過ごしている。100円ショップでレトルトパウチとそれに丁度良い長さの長いスプーンが200円で揃う時代。園で初めて歩行したとしても、保護者に初めての喜びを体験させることが必要である。

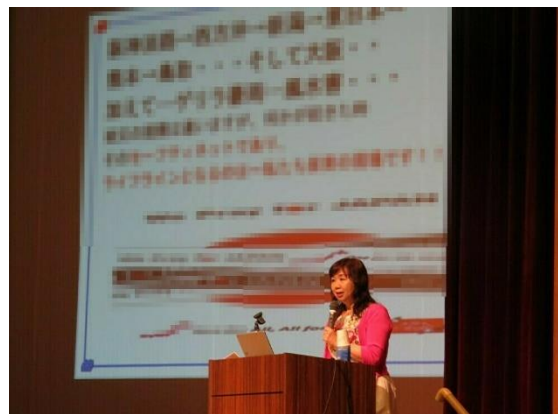
⑤計画や評価から見たこれからの乳児保育に求められるもの

保育の質の『見える化』…なぜ? どうして? について言語で説明できるようになること。計画は子どもの姿に始まり、子どもの姿に終わる。

⑥おわりに

今だからこそ『質』が問われている。それは、保育そのものを守ってくれることにもつながる。まずは自己評価し、先の見通しを持った専門職として子どもの育ちに寄り添っていく。

保育所は 子どもを預かる場所ではありません。子どもを育てるところです。
子どもを育てるという事は 未来を保障するという事です (村田保太郎先生の言葉)



研修3 「乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達」

講師：遠藤利彦 氏 (東京大学大学院教育学研究科 教授)

・子育てにはたった一つの理想型はない。「基本」だけを抑えて、あとは教えてもらったり、個性を活かしながら状況によって「それぞれの形」を創っていくべきもの。

・「基本」の一つ＝アタッチメント…いざとなったら助けてくれる人がいる。いつでもくっつける見通しが持てる事が大切である。

・自己と社会性の力＝「非認知」…人間にとって一番最初に身に付けておかなければならない心の土台。自分って愛してもらえる価値がある。助けてもらえる存在だと思える事。

・ジェームズ・ヘックマンの研究で、乳幼児期の保育が40歳時の経済状態・幸福を分けるのと分かりこの時期にお金を使った方が良い。子育て支援の前に子育て支援をした方が良い。

・質の高い保育を展開すると安心する→保護者が安心→働く→お金で子どもの教育へ
→しっかり働ける大人へ

・『幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿』の6の（思考力の芽生え）と7の（自然との関わり・生命尊重）以外は全て非認知能力である。他の時期では育ちにくいからこそこの乳幼児期に子ども自身の力にしてほしい10の姿であり、とりわけ大切にしてほしいことである。

- ・「非認知」の中核→自己と社会性の心の力…それを育むゆりかごとしてのアタッチメント。
- ・アタッチメントと「安心感の輪」…安心の基地と安全な避難場所がある→冒険する力に。
- ・アタッチメントと脳・身体の発達…自発的な豊かな遊びの中で、頭（脳）と体を使う。
- ・アタッチメントと心の発達…心に寄り添った言葉を掛けてもらおうと他者にも出来る。
- ・アタッチメントの個人差…子どもは養育者を選べない。養育者の関わりで個人差が出る。



（報告・感想）

研修では、胎児の写真が印象的だった。穏やかな表情が、母が煙草を一口吸った途端もがき苦しむ表情へ。環境の大きさを考えさせられた。又、色々な研究から乳幼児期の大切さ、非認知という部分を育むための一つとしてアタッチメントが有効だと再確認できた。アタッチメントを心掛けた関わりをしていくとともに、保護者の現状を理解した子育て支援の重要性を感じた。専門職として理由を分かりやすく言語化して保護者や地域に発信していく役割があると感じ、子どもの為に来ることを考え実行していきたい。

（文責：あしかりこども園 南里まゆみ）